

News letter vol.226

2014年12月2日：衣料繊維事業本部 ユニフォーム事業部 スクールユニフォーム部

第9回小中一貫教育全国サミット in 姫路に参加しました

第9回小中一貫教育全国サミット in 姫路が10月30日、31日の2日間に渡って開催され、当社はメイン会場の姫路市文化センターでブースを出展しました。

本サミットは全国の小中一貫教育や小中一貫校の研究・開発に取り組む自治体、学校、個人、企業等の情報共有・意見交換の活性化を主な目的としており、今年で9回目を迎えます。全国から約2,000人が参加し、学校や企業によるブース出展の他、開催地の小中一貫校における授業公開や大学教授を招いてのシンポジウム、また全国の小中一貫校による取組内容の発表など、様々な催しが開かれました。

主催団体である小中一貫教育全国連絡協議会は2006年に設立され、当社は情報収集などのため2007年に賛助会員となり、以来ブース出展を続けています。

現在、標準服を着用している小学生は全国で約15%ほどですが、小中一貫校化を機に標準服を導入する例も多いため、今後の更なる採用拡大に繋げるべく、標準服の効用に関する説明や全国の小中一貫校での着用状況の紹介などを行っています。

今年のブースではパネル資料、縫製品サンプル、写真集などを設置した他、年1回発行する小学校向け情報誌「ES+(エスタス)」を配布しました。また、このサミットは教育関係者と接点を持つ場としても活用しており、今回も開校したばかりの小中一貫校の先生や小中一貫校を設置予定の教育委員会の方などがブースを訪問してくださいました。当社の他にも学生服縫製メーカー3社、教科書出版社など13社がブース出展を行い、会場は教育関係者で大変な賑わいでした。今日の学校教育における課題に対しては様々な試みがなされていますが、その1つが小中一貫教育への取り組みです。小中一貫校とは小学校と中学校で一貫性を持たせた教育方式を実施する学校のことで、小中が同じ施設で学ぶ「施設一体型」や離れた場所にある学校間で連携を図る「施設分離型」など設置形態は様々です。いじめや不登校といった問題行動が中1で激増する「中1ギャップ」の解消や学力向上への効果が期待されており、その数は全国で約1130校あると言われています。

これまでは各自治体が独自に設置してきた小中一貫校ですが、現在それを制度化する議論がなされています。小中一貫校における標準服の採用拡大を狙うスクールユニフォーム部では、これらの動きにも注目しています。



[本件に関する問い合わせ先]
ニッケ 衣料繊維事業本部 ユニフォーム事業部
スクールユニフォーム部 スクール1課
〒541-0048 大阪市中央区瓦町 3-3-10
Tel:06-6205-6661

ニッケ グループ



う~るん